

3年 道徳

勤労・奉仕4-(5)

番組名 「時々迷々」

放送回 第25回 おしごとこわい

実践者 東京都北区立王子第一小学校 教諭 稲田 路子

自分の思いを迷わせる子どもたちの迷いを表す「迷々」。主人公たちの迷いを子どもたちの視点で見ることから、自分自身がどうしたらいいか自分に置き換えて考えることをねらいとした番組である。

番組の使い方

活用のねらい

番組を見ることで自分自身が進んで働くことの大切さを実感させる。

具体的な手立て

授業導入時  
…「男の子シンノの気持ちを考えながら見ましょう」  
丸ごと視聴 15分間  
番組を見せる視点を与えた後に、授業時間最初より、番組を丸ごと視聴し、自分の意見をもたせるようにする。

授業の概要（1時間扱い）

単元の目標：働くことの大切さを知り、進んでみんなのために働こうとする心情を育てる。

単元のオリエンテーション（3分）  
「自分で進んで働いたことはありますか」と問いかけ、考える。  
・主人公「シンノ」の気持ちを考えながら視聴するように視聴のポイントを指導する。

番組視聴（15分）  
・お笑い芸人の修行ができることと喜び勇んで仕事をするシンノに対しての共感する。自分の思いをもつ。  
・仕事に不満をもったり失敗したりを通じて、働くことの大切さに気付く。

感想交流（5分）  
・番組を見て思ったことや学んだことなどを交流する。

感想交流（15分）  
・仕事をして楽しかったことを話し合う。  
・友達の意見を聞き、自分がシンノだったらどうしたかを考える。  
・進んで働くということを自分はどう思っているかを発表する。

授業の振り返り（7分）  
・NHK for school 上にあるワークシート（一部改編）を用いて、自分の気持ちを表現してまとめる。そして、本時の価値について自己の振り返りをし、今後の行動を考える。

生き生きと学ぶ子どもの姿

クラス全員がシンノの気持ちを考えると共通の視点で考える。

お笑い芸人になりたいというシンノに共感しやすい様子が見られた。

「やばい!」「しまった!」とシンノに失敗した時、すぐに声を出して自分の気持ちを表現する様子が見られた。

互いの意見を交換して自分と他人を認める～自己肯定感や実践の発展に向けて考える。

学習を終えての自己評価によると、9割の児童が授業が楽しかったと回答しており、8割の児童の学習に対してのやる気が高まっていた。しかし、これからの生活に役立つかという部分では、6割ほどに下がってしまうのが課題である。

指導を終えて

番組を見ることを通じて、「仕事を進んですることの大切さ」について考え、知ることができた。どの子どもたちも、仕事を進んですると気持ちがいいという気持ちをもつことができた。

家族のお手伝いをして気持ちよくなったという意見を発表し合ってから、ワークシートに個別に書き表した。その後、自分自身がこれからどのようなことを進んで働いたらいいかを考え、その時の気分のよさなどを考える機会をもてたと思う。学習した日は特に日頃の係活動などの学校生活にも、その思いが表れていたように感じる。

